

2021年10月05日

チリ： 共産党の新世代が切り開く未来

<https://www.peoplesworld.org/article/the-new-generation-of-communists-leading-chile-to-a-post-pinochet-future/>

The new generation of Communists leading Chile to a post-Pinochet future

People's World

July 6, 2021

photos



左がハドゥエ、右がレジエス

「共産党の新世代がピノチェト後の未来へチリを導く」

左翼の躍進は、最近の多くの自治体や憲法制定会議の選挙で示されました。

それはピノチェト独裁政権の負の遺産を断固として拒絶し、新しいチリの建設の舞台を作り上げました。

ダニエル・ハドゥエとハビエラ・レジエスは、新世代の共産党のリーダーです。

サンチアゴ郊外の自治体首長であるハドゥエは、自ら突破口となる準備が整いつつあり、今年後半の大統領選挙では、チリ最初の共産党大統領候補になるでしょう。

.....

レジエスの生い立ち

31歳のハビエラ・レジスは、チリの首都サンティアゴ市のロ・エスペホ区の区長に当選したばかりです。サンティアゴには、チリ人口1800万人の3分の1が住んでいます

「私の育った家では、アジェンデがいつもいい人で、ピノチェットは暴君でした。それが私の人生を決めました」

レジスのコメントは、1973年9月11日の人民連合連合のピノチェットのクーデター以来、チリの政治における古くからの分裂を反映しています。

あれからほぼ50年が経過しましたが、いままチリはクーデターと、1990年まで続いた独裁政治の影響を受けています。

2021年5月の選挙は、レジスをロ・エスペホの市長室へと導きました。

世論は1980年の「ピノチェット憲法」を新憲法に取り替えることを支持し、そのための憲法制定議会設立にも賛成しました。

レジスの勝利と、新憲法制定を目指す左翼同盟の躍進は、チリの未来を形作るのが、ピノチェットではなくアジェンデの伝統だということを示しました。

ハドゥエの経歴

レジスもチリ共産党の党员です。共産党はこの109年間、チリの社会に深く根付いてきました。

党の指導部の一員でもあるハドゥエは、2021年11月に行われる大統領選挙で左派連合の候補になる可能性があります。

ハドゥエもレジスと同様、サンティアゴ市の別の区の区長です。2021年5月の選挙で、彼は2012年から在任しているレコレータ区長に再選されました。

ハドゥエはこう語りました。

共産党の方針には歴史的な一貫性があります。同じ展望で—もちろん更新はされていますが—変革が試みられてきました。

党员の誰一人も、国家主義体制や計画経済などは考えていません。しかし、間違いなく人民連合との歴史的な連続性があります。私たちは多彩なやり方で人々の夢の実現に参加します。

1970年代に、「もっと公正な国」を建設しようとしたのは誰だったのか。そして今日、あのときの青年たちの気持ちとまったく同じことを求めているのは誰でしょうか。

恐れることなく投票しよう

ハドゥエは、総選挙を前にした世論調査で、右翼のセバスティアン・ピニエラの後任として戦いの主導権を握っています。

すでにマスコミは、ハドゥエのこれまでの経歴や政治的スタンスについて、いろいろ中傷情報を流し始めています。なかでは特に、1980年代のパレスチナの活動との彼の関係が取り上げられています。

メディアによる左派の候補者つぶしは、ラテンアメリカの選挙プロセスの一部になっています。

エクアドルの極右報道機関は、左派の大統領候補だったアンドレス・アラウスが、コロンビアの左翼ゲリラ ELN(民族解放軍)から金を受け取ったと述べました。

右翼の報道機関はまた、ペルーの現在の大統領ペドロ・カスティージョがセンデロ・ルミノソに近接していたというフェイク・ニュースを流しました。それは選挙最終盤になって、カスティージョが僅差でトップに立ったという状況で一斉に流されました。

センデロ・ルミノソはスペイン語で『輝く道』、かつて存在したペルーの毛沢東派ゲリラです。

ハドゥエはこの間ラテンアメリカで左派候補者に対して行われた、これらのメディア・バッシングを拒否します。彼は言います。「隠すものは何もないのです。だから私の全てを可視化したいのです」

共産党は、今年5月に行われた国民投票に「Vota Sin Miedo」(恐れることなく投票しよう)というスローガンを掲げて参加しました。

このスローガンは、党の遺産となっている長い歴史に由来しています。

1927年から1931年、1948年から1958年、1973年から1990年の3つの期間にわたってチリ共産党は禁止され、党員は迫害を受けました。

ピノチェットの独裁政権は、軍隊や警察を使って、数千人の共産主義者を殺害しました。そこには多くの主要な指導者が含まれています。

被害者が犯人に仕立て上げられる

チリの社会は、アジェンデの社会主義がもたらした恐怖に捕らえられてきました。

それは本質的に、アジェンデではなくピノチェットのもたらしたものです。それは独裁政権の間に共産党に対して培われた「憎悪」の結果でした。

あれから何十年もたった今でも、共産主義者たちと一緒に並び立つためには「勇気」が必要です。

レジェスは私たちに言いました、
公僕として選出された共産党員は、執務を通じて市民に有効で思いやりのある態度を示しました。その結果共産主義への恐れは減少しています。

ハドゥエの担当したレコレータ区は、公営の薬局、眼鏡店、書店、レコード店、オープン大学、不動産業を非営利で運営しています。これはハドゥエの立案によるものです

レジェスはこう言います。

私の共産主義は「地方自治体の概念」に根ざしています。それは「権利」をみんなの権利とし、良い生活のための条件を作り出すことから始まります。

地方自治体の社会的プロジェクトは、「健康、教育、そして共同の営み」から始まります。これは「民主的で開かれた共同体」を目指すプロジェクトです。

サンチアゴには多くの区長がいます。そのなかでレジェス、ハドゥエ、イラシ・アスレルら3人の共産党員区長は、女性ハラメントに取り組み、女性政策を中心に据えています(イラシ・アスレルはセントロ区の区長で、21年5月に選出された)

彼らは、様々な意味で「恐怖のない社会」を作ろうと考えています。

「ペンギン革命」が運動の出発点

2006年、チリ全土の学生が教育の民営化に抗議しました。彼らの大規模な闘争は「ペンギン革命」と呼ばれていました。闘いの中軸をになった高校生が白と黒の制服を身に着けていたためです

レジェスは「2006年のペンギン革命は、私の最初の政治入門だった」と語ります。レジェスとアスレルはどちらも、2011年と2013年の世代に属し、国の高校・大学教育の不平等への大規模な抗議行動に参加しました。

レジェスはそのあいだに共産党に参加しました。前世代の活動家たち、すなわちカミーラ・バジェホ、カロール・カリオラなど、現在チリの革新政治を担う政治家たちはすでに共産党員でした。

学生の数派にわたるデモは、全産業の労働者による抗議の声とストライキと一緒に進められました。その抗議は上層階級のコンセンサスを揺さぶりました。

上層階級のコンセンサス

彼らは1990年にピノチェット体制が崩壊したあとも、国のために新しい憲法を書き込もうとしませんでした。そして新自由主義に真綿で首を絞められても、窒息状態から抜け出す道をもとめようとはしませんでした。

2019年10月、高校生は地下鉄運賃の値上げに抗議しました。現在も進行中のこの抗議の波は、チリの政治の流れを規定するようになりました。

「30ペソ(の運賃値上げ)じゃなくて30年(の民主化停滞)」というスローガンで、ピノチェット憲法に代わる新憲法の必要性を訴えました。

新生チリ

チリの選挙投票率はラテンアメリカで最低です。クーデターから17年間の独裁政権の後、国家という機構への信頼は事実上失われました。

投票は2009年まで義務でした。その後投票は義務ではなくなりました。若い人たちは選挙人登録に応じませんでした。しかし今度の新憲法の制定運動は、目覚めた若者からの呼びかけでした。18歳から29歳までのチリの若者の半数以上が国民投票に参加しました。

投票者の52.9%が女性でした。女性と若者は憲法制定会議の骨格を形成するでしょう。特にレジェスやアスレルなどの女性や若い女性が市長の職を引き継いだように。

155名の憲法制定会議は、そのような左翼の若者でいっぱいです。右翼は拒否権を行使できる議席の3分の1さえ勝ち取ることができませんでした。これは、9か月後に起草される新憲法が進歩的な性格を持つことを意味します。

7月18日、左翼連合の統一候補を決める投票が行われます。ハドゥエは別の学生運動指導者で、現在は「拡大戦線」に所属するガブリエル・ボリックと対決することになっています。いまのところ、すべての兆候はハドゥエがボリックに勝ち、11月の大統領選挙で右翼の代表と対決することを示唆しています。

エリアス・ラフェレッテ(1931年と1932年)とグラディス・マリン(1999年)に続いて、彼は大統領に立候補する3人目の共産党員になります。世論調査の通りなら、ハドゥエはチリ最初の共産党員大統領になるでしょう。

編集者の一言

7月18日の予備選挙では、ガブリエル・ボリックが勝利した。

原因ははっきりしている。右翼の反共デマだ。「米国は共産党の勝利を許さない。アジェンダの時代のようにまたクーデターを起こすだろう」といって恐怖を煽った。

たとえば悪いが、強姦された娘に「隙を見せたお前が悪い」と非難するようなものだ。その際の絶好の口実がベネズエラだ。右派の論調には「チリズエラ」という言葉が踊っている。

1973年、クーデター直前には「ジャカルタを忘れるな」という脅迫ステッカーが出回った。共産党員100万人が虐殺されたというインドネシアのクーデターのことだ。

歴史は否応なしに逆流を伴う。流れが強いほど逆流も大きい。しかし歴史はかならず、進歩と共同の本流に合わさっていくものだ。このことに確信を持って、前を向いて進んでいこう。